

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
231BZ03	交通情報論ゼミ	コンピュータを通して、交通を理解する	小宮 全	2年次通年	4
科目区分	専門	キーワード	論文作成、研究計画、共同研究		
ディプロマポリシーとの対応	3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目	プログラミング入門				
オフィスアワー	毎週水曜日 18:10-19:40				
教員への連絡方法	zen.komiya@toko.hosho.ac.jp、Google Chat、Google Classroom				
講義の目的	本講義の目的は2つある。1つ目は、情報や交通に関する研究を通して、世界で自分だけが知っている事実を手に入れること、2つ目は、その事実を手に入れる（作り出す）ための労力がどの程度か経験する事によって、身を持って知る事である。				
到達目標	論文を書き上げることである。ただし、自分だけが知っていることが書かれている事が必須条件である。自分だけが知っている事実は、どんなに小さな事でも良いし、自分だけが知っている期間が短期間でも良い。				
講義内容	本講義と並行して、情報科学概論を受講し、コンピュータ全般に関する基礎的な知識を身につけること。交通や情報に関する論文を読み、論文の読み込みから自分のテーマを決定し、実験と執筆を進める。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	ガイダンス	ゼミの進め方・研究計画書・論文執筆について理解する。		
	第2講	論文とレポートの違い（1）	自由研究論文を題材に、論文とレポートの違いを理解する。研究計画書と論文アウトラインの違いを理解する。		
	第3講	論文とレポートの違い（2）	自由研究論文を研究計画書・論文アウトラインに落とし込む。		
	第4講	論文とレポートの違い（3）	自由研究論文に足りないところを理解し、改良する。		
	第5講	論文の読み方を理解する	論文をアウトラインに落とし込む方法を理解する。		
	第6講	文献輪読と議論（1）	電車遅延に関する論文を読み、議論する。		
	第7講	文献輪読と議論（2）	鉄道技術に関する論文を読み、議論する。		
	第8講	文献輪読と議論（3）	鉄道とコンピュータに関する論文を読み、議論する。		
	第9講	論文の検索方法（1）	先行研究の重要性を理解する。論文の検索方法を理解する。		
	第10講	論文の検索方法（2）	学術論文の種類を理解する。		
	第11講	論文の検索方法（3）	特定のテーマに対して実際に検索し網羅性を確認する。		
	第12講	研究テーマの見つけ方（1）	大量の論文を読んで、興味・関心を深掘りする。		
	第13講	研究テーマの見つけ方（2）	テーマに対して、先行研究を検索する。		
	第14講	研究計画書の執筆指導(1)	研究計画書の作成方法を理解する。		
第15講	研究計画書の執筆指導(2)	研究計画書の仮提出をする。			

第16講	研究計画書の執筆指導(3)	研究計画書を完成させる。
第17講	研究の個別指導(1)	研究計画の第1段階を実行する。
第18講	研究の個別指導(2)	研究計画の第2段階を実行する。
第19講	研究の個別指導(3)	研究計画の第3段階を実行する。
第20講	研究の個別指導(4)	研究計画の第4段階を実行する。
第21講	研究の個別指導(5)	研究計画の第5段階を実行する。アウトラインの執筆をする。
第22講	卒業論文アウトライン作成指導(1)	ここまでの研究結果を論文にするためにアウトラインを作成する。アウトラインの仮提出をする。
第23講	追加研究指導(1)	アウトラインを作成することによって、研究の不足部分を明らかにする。
第24講	追加研究指導(2)	追加研究を実施する。
第25講	追加研究指導(3)	追加研究を実施し、それらを組み込んだアウトラインを作成する。
第26講	卒業論文アウトライン作成指導(2)	アウトラインの提出をする。
第27講	卒業論文執筆(1)	アウトラインに沿って、論文を執筆する。
第28講	卒業論文執筆(2)	論文仮提出をする(本提出論文をゼミ内で共有する)。
第29講	卒業論文執筆(3)	仮提出論文の修正をする。
第30講	卒業論文執筆(4)	論文本提出をする(本提出論文をゼミ内で共有する)。
指導方法	前期は、レポートと論文の違いについて理解し、論文を執筆するための準備を行う。後期は研究の設計方法や、実験方法、執筆方法を個別に指導する。	
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。	
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。	
成績評価方法	第16講で研究計画書を提出する。研究計画書ができていない場合は、後期の授業に進むことはできない。第26講でアウトラインの提出をする。アウトラインの提出ができない場合は、論文仮提出・本提出は受理しない。本提出後も訂正が必要になる場合もある。卒業論文 50%、平常点(報告・議論・授業内外課題) 50%	
課題(試験・レポート)に対する フィードバックの方法	授業の最初に、前回の課題の解説を実施する。	
テキスト	特になし	
参考文献	特になし	
実務家教員による授業	×	教員 経歴
特記事項		